

会員各位

2008年10月9日
日本化粧品技術者会
東京支部

第248回「学術講演会」のご案内

錦秋の候、会員各位におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
さて今回は、2題のテーマについて「学術講演会」を開催致します。
1題は化粧品容器開発で重要なプラスチック容器について、過去から現在そして将来求められる容器のあり方について、解説して頂きます。
またもう1題は、研究開発や事業開発で新たな挑戦との背反で、避けて通れない“失敗”について、同じ失敗を繰り返さない方法、未然防止の方法、失敗知識の伝達・活用方法についてなど、興味深いお話を伺います。
皆さまお誘い合わせの上、多数ご来聴いただきますようご案内申し上げます。

記

1. 日時：2008年11月10日(月) 13:20～16:20 13:00～ 受付開始
2. 場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)
(JR線・地下鉄線 市ヶ谷駅下車;参加申込書略図参照)
東京都千代田区九段北 TEL;03-3261-9921
3. 講演

【講演-1】 13:20～14:20

『化粧品・トイレタリー用、プラスチック容器の現状と事例について』

株式会社吉野工業所 研究室 室長 古塩 秀一 氏

[要旨]

これまでの容器の経緯、現在求められている容器、今後求められる容器(環境対策等)等について述べる。

[講師略歴]

東京理科大 工業化学科卒
S54年4月 (株)吉野工業所入社
同 6月 技術部・研究室に配属
～ 一貫して「プラスチック容器の開発業務」に従事
主として、素材研究に携わる

【講演-2】 14:30～16:20

『リスクマネジメントのための失敗学』

東京大学大学院工学系研究科 社会連携講座 特任教授 濱口哲也 氏

[要旨]

これまで人類は数々の失敗を経験し成長してきた。未知のことに挑戦する時、つまり新しいものを創造するとき、失敗は避けては通れないものであり、そこから学ばなければならない。過去の失敗の再発を防止するだけでなく、そこから得られた知識をもとに未だ起こってもいない失敗を未然に防止しなければならない。ところが、この**未然防止には発明や発想と同様の難しさがある**。そのために近年の日本では、防止できたはずの企業不祥事や大事故が相次いでいる。

本講演では、失敗とうまく付き合いそこから有益な知識を得る方法、同じ失敗を繰り返さない方法、未然防止の方法、失敗知識の伝達・活用方法について講演する。

[講師略歴]

1986年 東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専攻 修士課程修了
1986年 日立製作所入社, 磁気ディスク装置の研究・開発・設計に従事
1997年 日立製作所主任研究員
1998年 東京大学工学博士
2002年 東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専攻 准教授
2007年 東京大学大学院工学系研究科社会連携講座 特任教授 現在に至る

[所属学会]

日本機械学会, 特定非営利活動法人失敗学会

[主な著書]

『実際の設計－機械設計の考え方と方法－』(共著、日刊工業新聞社)
『情報機器技術』(共著、東京大学出版会)
『実際の情報機器技術』(共著、日刊工業新聞社)など

以上

日本化粧品技術者会東京支部 事務局 行
(FAX:03-3586-0833)

第248回 学術講演会(開催日:11月10日)参加申込書

参加者 氏名	該当に○ : 正会員、準会員、シニア会員、相談役・顧問、代理参加
	代理参加の方は、正会員のお名前もお書きください 正会員名
会社名	
連絡先	TEL:
	FAX:

◇ 申込方法

- 本申込書を事務局(03-3586-0833)にFAXして下さい。
- 参加費は無料です。
- 参加証は発行しませんので、特に事務局からご連絡(定員でお断りする場合)がない限り、参加可能です。
- なお、正会員1名につき、代理者1名の参加が可能ですが、準会員、シニア会員の方はご本人のみ参加可能です。

申込締切日:10月31日(金)

会場定員になり次第、締切らせていただきますので、お早めにお申込下さい。

◇ お問い合わせ先

日本化粧品技術者会 東京支部事務局(TEL:03-3586-0775)

◇ 会場(アルカディア市ヶ谷)略図



JR市ヶ谷駅
地下鉄有楽町線・新宿
線市ヶ谷駅(A1-1出
口)より
徒歩2分